



YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY

「ロータリーに輝きを」 Light Up Rotary

2014-15年度 RI会長/ゲイリーC.K.ホアン

RI.D2590ガバナー/大野 清一

横浜旭RC会長/増田嘉一郎

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-2 後藤ビル2F
TEL.045-365-3273
FAX.045-365-3132
Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp
〒241-0821

例会場 二俣川相鉄ライフ4Fコミュニティサロン
例会日 毎週水曜日/12時30分~1時30分



2014年 11月26日 第2176回例会 VOL. 46 No. 20

- 司 会 SAA 齊藤 善孝
- 開会点鐘 会 長 増田嘉一郎
- 齊 唱 それでこそロータリー
SL 市川 慎二

■出席報告

会 員 数	35名	本日の出席数	25名
本日の出席率	86.21%	修正出席率	100%

■本日の欠席者

新川、二宮(麻)、安藤(公)、佐藤(真)

■ゲスト

山本 博子様 (アジアの女性と子どもネットワーク)

安藤 芳子様 (アジアの女性と子どもネットワーク)

■会長報告

1) 11月23日は、勤労感謝の日でした。勤労感謝の日の起源は古く、奈良時代まで遡り、五穀(米・麦・粟・豆・黍(きび)、または稗(ひえ))を指すことが多い。)の収穫を祝う風習に始まり、飛鳥時代にその年の収穫に感謝する新嘗祭(にいなめさい)という行事を宮中で行うようになりました。この行事は、一時中断された時もありましたが、明治時代迄、旧暦の11月の2回目の卯の日に行われていました。明治6年太陽暦が採用された年は、2回目の卯の日である11月23日に行われ、翌年から毎年11月23日に行われました。第二次世界大戦後、昭和23年に勤労感謝の日に改められたものです。農業中心の時代から変わり、産業の発展によって農業・産業・サービ

ス業等を全ての「労働」というです。祝日法によると、「勤労をたつとび、生産を祝い、国民たがいに感謝しあう日」と定められており、私達の日々の仕事に感謝する日ということになります。

2) 先週の会長エレクトフォーラムにおいて、例会の食事の件が問題となりましたので、改めて補足説明しておきます。まずこの例会場です。この会場に移ってきた時に在籍された会員はご存知のことと思いますが、使用料は3時間で1万5千円で、1時間延長すると5千円です。このライブ内の飲食店から6万円以上の食事を取ると、使用料は無料になります。外部からの食事の持ち込みは、認められておりません。

次に9月の情報集会で食事を発注する店舗を考えて欲しいという意見がでた件です。副幹事の方で、他の店舗に当たり、例会にもサンプルをもってきてもらいました。今月の理事会で発注先を2つの店舗とし、隔週で注文するという事と、食事代は1回6万円を目標として交渉するという事と承認を得たのですが、12日の幹事の理事会報告で申し上げたとおり、改めて当該店舗と交渉したところ、従業員が退職して人の手配がつかないということで、お断りされてしまいました。今は、対応に苦慮しているところです。

3) 本日は12月の第1例会に開催される年次総会の1週間前の例会ですので、理事候補者

指名委員会から報告された理事候補者を発表します。既に公示されておりますとおりです。青木邦弘、安藤公一、五十嵐正、佐藤真吾、福村正、田川富男、新川尚、関口友宏の各会員と、増田嘉一郎です。

■幹事報告

1) 例会臨時変更のお知らせ

○横浜緑ロータリークラブ

日時 12月17日(水)夜間移動例会

点鐘 18時30分

クリスマス家族会

場所 新横浜国際ホテル

日時 12月24日(水)通常例会

日時 12月31日(水)休会

日時 1月7日(水)休会

○横浜港北ロータリークラブ

日時 12月18日(水)夜間移動例会

点鐘 18時30分

年末家族懇親会

場所 新横浜プリンスホテル3階

日時 12月25日(水)休会

日時 1月1日(水)休会

日時 1月8日(水)新年通常例会

例会後、熊野神社参拝

○大和ロータリークラブ

日時 12月9日(水)夜間移動例会

クリスマス家族会

日時 12月23日(水)祭日休会

日時 12月30日(水)休会

日時 1月20日(水)→16日(金)

4クラブ合同賀詞交歓会に振替

2) ロータリー為替レートのお知らせ

2014年12月のRI 為替レート

1ドル=112円(11月106円)

■親睦委員会

市川 慎二

クリスマス家族親睦会へのご参加、宜しくお願い致します！

■5分間情報

「クラブの財務について」

研修・情報・広報・IT委員長 関口 友宏
先週のクラブフォーラムで財務がテーマになりましたが、クラブ運営の基本的なことなので、再度、確認して頂きたいと思います。

年会費はクラブの運営費であって、奉仕のための資金ではありません。これはあらゆるクラブ組織の通則で、奉仕活動に参加する時は、その都度会員が自発的に出すべき性質の

ものですが、その煩わしさを避けるためにプールするのがニコニコです。

この原則に従いますと、前期の収支は実質的に100万円の赤字で、これをニコニコで補填しているのが実情です。

また、活動費(ニコニコから、26万円)に対して、管理費(本会計支出1,000万円内、食費は280万円)は、余りにも高コストではないでしょうか。

因みに、外国のクラブでは、食費は年会費に含まれていないそうです。

安易な会費の値上げをする前に、情報集会等で議論を深めて頂くことを望みます。

■ニコニコBOX(会員敬称略)

増田嘉一郎/アジアの女性と子どものネットワーク山本博子様、安藤芳子様、ようこそいらっしゃいました。無理なお願いを聞いていただき有難うございます。卓話を楽しみにしています。

漆原恵利子/アジアの女性と子どものネットワーク山本様、安藤様、本日は有難うございます。よろしくお願いいたします。

太田 幸治/①先日は妻の誕生日に素敵なお花を頂きまして有り難うございます。花が大好きな妻は大変喜んでおりました。②横綱白鵬の32度目の優勝を祝して。スマイルに協力させていただきます。

安藤 達雄/アジアの女性と子どものネットワークの山本さん、本日は卓話よろしくお願ひします。

岡田 清七/山本博子さん、本日の卓話宜しくお願いします。

佐藤 利明/AWC 山本様、安藤様、お久しぶりです。本日の卓話宜しくお願い致します。

五十嵐 正/AWCの山本さん、安藤さん、本日の卓話楽しみにしております。よろしくお願ひします。

北澤 正浩/山本様、ようこそいらっしゃいました。卓話たのしみにしております。

田川 富男/ポールハリスフェローを頂きまして有難うございました。さっそくバッジを付けさせてもらいました。

秋内 繁/①青木さん、安藤公一さん、ゴルフの馬券では期待を裏切り恐縮です。次から私を買わないでください。②山本博子様、卓話よろしくお願ひします。

■卓話

○卓話者紹介

五十嵐 正

NGO 非営利国際協力団体アジアと女性と子どもネットワーク（通称 AWC）から、本日は事務局長山本さまと安藤さまをお迎えしました。

1996年5月、タイの山岳民族の村を訪問した。その時、就学の機会を求めて座り込みをしている数十組の親子と出会った。建物や資材の不足で義務教育を受けることができない子どもたちが、他にも大勢いた。「母親としてなにかしたい」。その思いで、母親たちが集まり、団体を設立した NGO です。対象国は、タイの山岳民族の女性と子どもたち。

代表はマリ・クリスティーヌさんで、以前代表がクラブで卓話をして頂いた事をご記憶の方もいらっしゃると思います。

クラブでは区民まつりの展示コーナーに NGO を毎年招待し、今回は本日お招きしました AWC にお願ひしました。クラブが国内でできる国際奉仕の形の一つであります。

タイの山岳民族の女性と子どもたちの支援に立ち上がった団体ですが、その活動範囲は広がりを見せ、今回は特に東日本大震災における支援活動にポイントを絞って卓話をお願いしました。ロータリークラブの支援の形との違い、そしてそのパワーを実感して頂ければと思います。

「アジアの女性と子どもネットワーク」の活動

山本 博子



「アジアの女性と子どもネットワーク」(AWC)の山本です。本日はお招き下さりありがとうございました。

私たち「アジアの女性と子どもネットワーク」は就学支援を始めとして、タイの山岳民族の支援をしています。タイに住む山岳民族は、国籍を持たない人も多く、タイ人の中にはまだ蔑視している人も多いため、現在も貧

困な生活を余儀なくされています。「学校建設プロジェクト」はこれらの人々が教育を受けることにより生活状況が改善されることを目指し実施しています。これまでにタイ各地に学校を10校建て、現在約4,000人の子どもたちがここで学んでいます。

学校建設プロジェクト

～わたしの村にも学校ができたよ～

タイ北部山岳民族の村で、母親たちが子どもを学校に入学させてほしいと座り込みをしている場面に出会ったことから AWCの活動がスタートしました。

教育支援の一環として、元々ある学校の校舎や寮の建設に協力し、子どもたちの学びの環境を整えるお手伝いをしています。企業の助成により1998年から開始され、2007年度までに10校を建設しました。連方から通う子どもたちのための寮も3校に4棟建設されました。このプロジェクトにより現在約4000人の子どもたちが学校に通っています。カレン族の子どもたちが通うメーランカムスクールでは、生徒たちの給食のために豚豚事業も行っています。



1990年代にタイでは HIV/AIDS が蔓延しました。働き盛りの人々が命を落としました。残された子どもたちの中には、母子感染した子どももいます。これらの子どもたちが、元気に生きていけるように支援しているのが「AIDS 孤児里親基金」です。

2007年にチェンライ県の幼稚園を訪問した時に、お弁当におかずを持っていない子どもたちと出会いました。栄養不足から髪の毛の色が脱色し、青っ涙を垂らしている子どももいました。「おなかいっぱいプロジェクト」は健康で元気に生きていけるようにと、子ども

トイ・ライブラリープロジェクト

～おもちゃでいっぱい遊ぼう!!～

アジア地域の子どもたちがおもちゃを通して楽しい子ども時代を過ごすためのプロジェクトです。

「おもちゃ」は子どもが子どもらしく、遊ぶための、大切なアイテムです。子どもはおもちゃを使って遊ぶことで想像力や運動能力、知力、自己表現力を伸ばしていくことができます。日本おもちゃ図書館財団との協力によりトイライブラリーを開設します。

アジア地域の、おもちゃに接する機会が少ない子ども達のために、保育園や学校、施設に子どもが誰でも楽しめるおもちゃを贈ります。おもちゃが保育園や学校にあるということで、子ども達の就学率や出席率を伸ばすことができます。



おなかいっぱいプロジェクト

～栄養いっぱいおいしいごはん～

タイに住む山岳民族の子どもが、栄養のある温かい食事でおなかいっぱいになり、ニコニコ元気で遊べるためのプロジェクトです。



2008年、タイ国チェンライ県のリーパー村を訪問し、栄養不足の子どもたちと出会ったことがきっかけで始まったプロジェクトです。2010年からは、リーパー村の子ヤイルドセンターに続き、チェンライ県チェンボン地区のストリートチルドレンの保護施設の子どもたちにも食費の補助を行っています。

* まんぷく基金(一口500円)へのご寄付。書き損じはがきを随時受け付けているほか「おなかいっぱいTシャツ」の販売を始め、その売上をこの事業に充てています。書き損じはがきは2枚で3食、Tシャツは1,000円でお買い上げいただくことで15食の食事を子どもたちに提供できます。



AIDS孤児里親基金

～安心・元気に暮らすのために～

タイに住むAIDS孤児のために養育、通学のための費用等の協力支援を行います。

AIDS孤児とは、親(片親でも)がHIV/AIDSに感染し、生活に数々の不具合が生じている子どものことです(本人がHIVに感染しているとは限りません)。親からHIVをもらった子どもは、他の子どもに比べて免疫力が低いので衛生と栄養補完等に気をつけなければなりません。抗HIV薬を服用には支援が必要です。協力先は、タイ・チェンマイにある「愛の家」と「希望の家」です。

* AIDS孤児里親基金
一口1000円、5000円で
1人の子どもの1か月分の
学費・薬代・食費などの
生活費を支えます



子どもの商業的性的搾取の根絶にむけての活動

～子ども買春、子どもポルノをなくそう～

「子どもの商業的性的搾取は子どもの権利に対する根本的な侵害である。子どもは性的な対象物として売買する物品として扱われる。」

子どもの商業的性的搾取は子どもに対する強制及び暴力の一形態であって、強制労働や奴隷制の現代的な形と考える(子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議:ストックホルム宣言より抜粋)。AWCでは、子どもの商業的性的搾取の根絶を目指して、日本国内での法律の制定、改善を呼びかけるロビー活動や、ワークショップ、シンポジウムの開催等を行っています。また、現地NGOが実施しているタイ国チェンライ県の山岳民族の青少年を対象とした性教育キャンプにも協力しています。



かいこプロジェクト

～魚の提供ではなく、魚の釣り方を～

AWCではその場限りの支援(魚)ではなく、社会的立派の弱い人が、自分の力で立ち上がっていくお手伝い(魚の釣り方)をすることがモットーです。

かいこプロジェクトは、桑畑を作り、蚕を育て、繭を作り売るといった昔からタイで行われていたことを子どもたちと行い、これを自立につなげようという事業です。



近代的なものを持ち込みエネルギーを消費するのではなく、自然にやさしく人にも土地にも優しいプロジェクトで、繭は繊維に利用するのではなく、食餌や化粧品などに非繊維利用することを考えています。

スタディツアー

～見たい・聞きたい・感じたい～



毎年夏季に支援先を訪問するスタディツアーを実施しています。

学校・施設訪問・山岳民族の村ホームステイなど、タイのたくさんの方々のなかから様々な問題や現状を実際に自分の体で感じてみませんが、自分の目で見て、自分の頭で考えて、時には旅の仲間と想いを共有します。違う土地、違う民族、ちがう習慣、ちがう言葉の中でも同じものはきっとあるはずです。

旅で得た仲間、経験、私にとって宝物です。



たちに一日一食でも栄養ある食事を提供することを目的に立ち上げました。皆様からお寄せいただいた書き損じはがきのご寄付がこの支援に充てられます。1食30円の予算で実施していますので書き損じはがき2枚で3食の給食を届けることができます。

「かいこプロジェクト」は子どもたちの自立を支援するもので、ストリートチルドレンの保護施設で実施しています。タイでは昔から養蚕が行われていますが、これを糸として利用するのではなく、非繊維利用として化粧品などの材料にする会社にお問い合わせいただいています。さなぎは子どもたちのたんぱく源として食用になります。ストリートチルドレンの多くは生育過程で親や周りの人々から疎外されてきている傾向がありますが、桑やかいこの育成を通して、子どもたちに命を慈しむ気持ちが育ち始めています。

その他に「子どもの人身売買根絶のための活動」、おもちゃを届ける「トイライブラリープロジェクト」、経済的な自立を支援する「フェアトレード」、支援先を訪問する「スタディツアー」等の事業に加えて現在は

「東日本大震災復興支援事業」も実施しています。

○「アジアの女性と子どもネットワーク」の東日本大震災復興支援事業

東日本大震災復興支援事業では、私たちは陸前高田市の子育て支援施設「親子の広場・きらりんきつず」に特化して支援を行っています。陸前高田市とは2008年、私たちの支援先であるのAIDS 孤児の絵画展を開催及び、フェアトレード品の販売などをお手伝いしていただいたご縁があります。ご協力に対して何らかの形でお返ししたいと、大震災直後から私たちは陸前高田市に届けるための募金活動を開始しました。

2011年5月、私は陸前高田市に行きました。この時に見た瓦礫のまちは、今も目に焼き付いています。胸がつぶれるような思いがしました。まだ冠水したままの道路を車で走りながら、私はAIDS孤児の絵画展を開催した時の担当の保健師さんを探しました。寄付が本当に役立つ支援先を探すことは、募金を寄せてくださった方への大きな責任です。陸前高田市が準備した募金口座に送金することは簡単

でしたが、皆様にどこでどのように活用させていただいたかを報告するために、目に見える支援先を探して、直接そこに送金するのが私たちの支援事業の実施方法です。

AWCではタイの支援事業でもいつも必要な人々のところに直接支援をしています。陸前高田の仮設市役所で尋ね、その後いくつかの情報をもとに一番大きな避難所である高田第一中学校にある医療相談室で保健師さんと会うことができたことは奇跡に近いようなことでした。この保健師さんから、支援先として子育て支援をしている「きらりんきっず」をご紹介します。

避難所では子どもの夜泣きの声に申し訳ないと気遣いをする、授乳の際に人目を気にしなければならない、アレルギーを持っている子どもの食事を準備できない、おむつやミルクが足りないなど、子育て中の母親たちには多くの苦労がありました。この状況を少しでも改善したいと、「きらりんきっず」の代表の方は避難所の図書室に「親子の広場」を作り、母親たちが安心して授乳をし、穏やかに子どもと過ごすことができるように、またアレルギー対応食を準備するなどの支援を始めました。代表者は3人の小学生を持つ女性で、ご自身も津波で夫を亡くし、自宅も流されてしまっていました。しかし、嘆き悲しんでいても何も始まらなると決断され、周りの人々のために立ち上がったのです。

「親子の広場・きらりんきっず」は、避難所が閉鎖され仮設住宅に移った後も、コミュニティから離れた人々の子育てが孤立しないように、全国から届いたおむつやミルクなどの支援品が必要なところに届くように、子育ての悩みや不安を話し合えるようにと、活動を続けています。さらに最近では震災後増えた父子家庭のための料理教室などを開き、地域の伝統食を伝えながら、地元に着愛を持つ子どもが育つようにと活動を展開しており、AWCは現在も継続してここを応援しています。

私自身は、これまでに数え切れないほど被災地を訪問しました。訪問するたびにまだまだ津波の爪痕が深く残っていることを実感します。

ある小学校の校長先生に聞いた話では、最近日本を始め世界中で頻発している災害の報道に接するたびに、津波のことを思い出しパニックになる子どもが多数いるということで

※事務局までお問い合わせください。

私たちのまごころが
こもった手作りの作品です。



ボランティアデー
毎月第三木曜日18:30から
事務局にてボランティアデー
を開催しています。楽しく
タイのこと、子どもたちのこと、
法律のことなどおしゃべりしな
がら作業をお手伝いいただい
ています。是非ご参加ください。

ご協力下さい。
AWCでは皆様からのプロジェクト
の為に寄付は全額先方へ届け
ています。通信費、事務経費にも
ご協力をお願いします。



この場とまれ!
AWCではそれぞれのプロジェクトに
ご賛同頂ける方からの寄付や協力
でプロジェクトを行っています。
私たちの活動に参加してみませんか?

バザーイベント
NGO団体が集まるイベントへの出店等。
バザーではタイ民話紙等を適正価格にて
販売しています。

書き損じハガキ
おながいハガキプロジェクトでは
書き損じハガキの募集を随時
行っています。書き損じハガキ
2枚で3人の子どもに栄養たっぷりの
給食を1食提供できます。

振込先
郵便振替: 00200 - 0 - 4109
口座名称: 「AWC」
備考欄に、振り込み先プロジェクト名をお書きください。

アジアの女性と子どもネットワーク
代表 マリ・クリスティーヌ
〒231-0015
神奈川県横浜市中区尾上町3-39
尾上町ビル9F YAAIC内
Tel&Fax 045-650-5430 (月/水/木/金 13時~17時)
E-mail: awc@h6.dion.ne.jp
URL : <http://www.awcnetwork.org/>



す。学校で避難訓練をする際にもとても気を遣うようで、避難訓練に参加できるかどうかを各家庭に聞き、参加できないようなら子どもは休ませるか、保健室にそれらの子どもを集めて、避難放送は聞こえないようにしているそうです。また、地震や津波ではなく火災の訓練とし、津波の話は訓練の最後にするなどの工夫をしているとのこと。震災から3年以上たちましたが、復興への道のりはまだまだ長いです。

東日本大震災復興支援を通して、私は、人と人との繋がりの大切さをとても強く感じています。つい先日の長野の地震でも、大規模な災害であったのに、死者が出なかったのは、地域の人々のネットワークがとても良かったからだと言われています。災害はいつも突然やってきます。少しでも被害が少なくなるように、また、災害後できるだけ早く復興するためには、常日頃から周りの人たちとつながり、ネットワークを大切にすることが重要です。

ロータリークラブの方々は常に人のつながりを大切にされてきていらっしゃると思います。素晴らしいことだと思います。これからも皆様の絆を強め、活動を活発化されることを祈念して話を終えさせていただきたいと思います。

■次週の卓話

12/10 鈴木 忠彦様

「災害時のアマチュア無線の活用」

週報担当 桜田 裕子

平成26年10月度出席率一覧表

員数	会 員 名	ホームクラブ	他クラブ	出席率	員数	会 員 名	ホームクラブ	他クラブ	出席率
1	秋 内 繁	100	0	100	21	岡 田 清 七	－出席規定免除－		
2	安 藤 公 一	100	0	100	22	太 田 勝 典	－出席規定免除－		
3	安 藤 達 雄	－出席規定免除－			23	太 田 幸 治	100	0	100
4	青 木 邦 弘	100	0	100	24	斎 藤 善 孝	75	25	100
5	千 葉 和 裕	100	0	100	25	桜 田 裕 子	100	25	125
6	福 村 正	100	0	100	26	佐 藤 真 吾	100	0	100
7	後 藤 英 則	100	0	100	27	佐 藤 利 明	100	0	100
8	兵 藤 哲 夫	－出席規定免除－			28	関 口 友 宏	100	0	100
9	市 川 慎 二	100	0	100	29	杉 山 雅 彦	75	25	100
10	五十嵐 正	100	0	100	30	鈴 木 茂 之	100	0	100
11	川 瀬 恵津子	－出席規定免除－			31	田 川 富 男	100	0	100
12	北 澤 正 浩	75	25	100	32	内 田 敏	－出席規定免除－		
13	今 野 丁 三	－出席規定免除－			33	漆 原 恵利子	100	0	100
14	倉 本 宏 昭	－出席規定免除－			34	矢 田 昭 一	－出席規定免除－		
15	黒 瀬 一 敏	－出席規定免除－			35	吉 野 寧 訓	－出席規定免除－		
16	増 田 嘉一郎	100	0	100	36	吉 原 則 光	－出席規定免除－		
17	松 本 英 二	100	0	100	37				
18	新 川 尚	100	0	100	38				
19	二 宮 麻理子	75	25	100	39	高 梨 昌 芳	名 誉 会 員		
20	二 宮 登	75	25	100	40	松 本 良 彦	名 誉 会 員		
例 会 日	1日		8日		15日		22日		平均
例会出席率	$\frac{32}{32}$	100%	$\frac{32}{32}$	100%	$\frac{28}{31}$	$\frac{90.32}{100}$	$\frac{31}{33}$	93.94%	
修正出席率	$\frac{32}{32}$	100%	$\frac{32}{32}$	100%	$\frac{31}{31}$	100%	$\frac{33}{33}$	100%	100%